# 『わざわいの日に平安を』（詩篇 94 篇 1-23 節）2021.8.29.

**＜はじめに＞** 13 節の「わざわいの日に、あなたがその人に平安を賜るからです」は、不思議な表現です。普通、平安・安心は穏やかで幸せな日々の中で実感するものではないでしょうか。しかし、この聖書は「わざわいの日に平安を」と言うのです。それが何なのかに目を留めて見ましょう。

## Ⅰ　災いの中で

### ①自然界に起こる災い

自然から私たちは多くの恵みと喜びを得ていますが、これが牙をむくと恐ろしいものです。気象の極端化で猛暑・干ばつ・洪水・土砂災害が襲い掛かり、大地震や火山噴火も警戒が促されています。加えて、今私たちはウィルス変異による感染症と直面しています。

### ②人間が引き起こす災い

人との交わりと関わりから、私たちは多くの喜びと励まし・慰めを得ますが、反面苦しみ悩みの多くも人由来です。3-6 節には高ぶる者(2)、悪者(3)、不法を行う者(4)、暴力と虐待(5)、殺人(6)が列挙されています。人が一番厄介で怖いと感じる人は少なくありません。

### ③災いから目を移す

災いに満ちる世の中で、悪者は「主は見ることはない。ヤコブの神は気づかない」(7)と勝ち誇ります。それに目を留めるなら、苛立ちと苦しみを増すばかりです。しかし、作者は「なんと幸いなことでしょう」(12)と言います。彼は「主よ」(1,3,5,12,18)と目を転じます。

## Ⅱ　主とはどんな方

### ①復讐の神（1-2）

復讐と報復は神のもの(申命 32:35,ロマ 12:19)、復讐の神(1)が敵でなく味方ならば心強い方です(17)。神はご自分の民を見捨てず見放さず(14)、立ち上がり(16)、とりで・避け所の岩となってくださり(22)、代わりに敵と戦い、これを滅ぼされます(23-24)。

### ②すべてを知っておられる(8-11)

人も万物も造られ、その成り立ちを知る方はすべてをご存知です(9)。気づいていないのは人の側です(8)。主は、人の思い計ること全てを読み取られ(11)、人の知識・知恵よりも優り、国々を戒め責められます(10)。すべての上におられ、公正に支配される御方です。

### ③聞いて、立ち上がる方（16-19）

人は苦しみの中で叫びます。「いつまで」(3)「だれが私のために」(16)「もしも」(17,18)と。それを聞いて立ち上がり(16)、支え(18)、思い煩いが増すときに慰め、喜ばせてくださる(19)のが主です。災いの日も、悪者のために穴が掘られる(13)時とされます。

## Ⅲ　平安を保つために

### ①気づけ(8)

神がいないのではなく、神を見ていない、気づいていない人間側に問題があります。高ぶる者(2)、自慢する(4)者は、ことば、態度、行いに表れ、主は彼をまぬけ者・愚か者(8)と呼ばれます。そして復讐の神、主がおられることに「気づけ」(8)と挑まれます。

### ②へりくだり呼び求める（18-19）

人が神の前に何者であるかに気づくのは、どういう場面でしょう。歩みがおぼつかないとき、思い煩いが増すとき、試みの中で、人は自分の弱さに気づき、神を呼び求めます。神は高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みを与えられます(ヤコブ 4:6)。

### ③神が味方（12）

神なる主に戒められ、教えられる者(12)は幸いで、主はわざわいの日にあっても、彼に平安を賜ります(13)。神がご自分の民の味方となられるからです。神が味方となられる約束と証拠としてロマ 8:31-37 も読んでください。

**＜おわりに＞** 神は災いから逃れさせ、会わないようにもできますが、その中にあって平安を与えることもできます。いずれにしても、私たちが神の民であるなら、主は私たちの味方、私たちを支え、私たちのために戦ってくださる方です。この御方に日々気づいて生きていますか。(H.M.)